

授業科目名 <英訳>	リサーチメソッド Research Methods				担当者所属・ 職名・氏名	経営管理大学院 教授 若林 直樹					
配当 学年	1	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	土2,3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
科目区分	博士基礎科目		指定プログラム								
学期			他研究科聴講	否	神戸大学との相互履修			否			
[授業の概要・目的]											
<p>経営学における研究とは、経営現象における真理や原理を明らかにする知的な行為である。そして、それは「科学的な説明」を必要とする。説明することができれば、それを理解できたことになるし、応用につなげることもできる。そして、説明は「もっともらしい」ではなく、因果関係に基づく「正しい」ものでなければならない。</p> <p>経営の研究方法には、さまざまなものが有り、研究目的に応じて選択し、組み合わせるべきである。本講義では、事例分析、質的研究方法、量的研究方法を紹介する。自身のリサーチ・クエスチョンに合わせて、どのように研究方法を選択し、取り組んでいくべきかについても学ぶ。</p>											
[到達目標]											
経営学における研究方法について学び、自主的に研究を遂行できるようになることを目標とする。											
[授業計画と内容]											
<p>次のようなトピックを説明、実習してもらおう。鈴木智子一橋大学准教授にも非常勤を依頼している関係で、回が入れ替わる可能性がある。</p> <p>第1回 イントロダクション 研究をはじめるにあたって 第2回 研究の課題設定とデザイン 第3回 事例研究法1（手法概説） 第4回 事例研究法2（分析手法） 第5回 ケースメソッド（教育法概説） 第6回 開発ケース報告 第7回 事例分析報告 第8回 リサーチ・クエスチョンと仮説構築 第9回 リサーチ・クエスチョンと仮説の発表1 [個人発表] 第10回 リサーチ・クエスチョンと仮説の発表2 [個人発表] 第11回 質的研究方法 第12回 量的研究方法 第13、14回 リサーチ・デザインの発表 [個人発表]</p>											
[履修要件]											
<p>経営の研究の場合、複数の方法論を併用することが最近のトレンドであり、また望ましい（トライアンギュレーションともいう）。そのため、MBAの以下の授業を受講するか、それと同等の知識があることが望ましい：</p> <p>「サービス創出方法論」（山内裕）：エスノグラフィー手法等 「マーケティングリサーチ」（野沢誠治）：インデプス・インタビュー手法等 「経営調査論」（若林直樹）：ケース・スタディ手法と大規模サーベイ手法等</p>											
----- リサーチメソッド(2)へ続く -----											

リサーチメソッド(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

リサーチ・デザイン（研究計画）の作成および事例分析を通じて「科学的説明」ができる能力達成度について、以下のような方法で評価する。

- 授業における討論参加、小レポート（25%）
- 開発ケース報告（20%）
- 事例分析報告（15%）
- リサーチ・クエスチョンと仮説の発表（10%）
- リサーチ・デザイン発表（10%）
- 研究計画書提出（20%）

[教科書]

鈴木智子 『イノベーションの普及における正当化とフレーミングの役割』（白桃書房）ISBN: 9784561266129

[参考書等]

（参考書）

- ダン・レメニイ 『研究の進め方』（同文館出版）ISBN:4495865218
- 田村正紀 『リサーチ・デザイン』（白桃書房）ISBN:4561264574
- 田村正紀 『経営事例の質的比較分析』（白桃書房）

[授業外学習（予習・復習）等]

本講義では、発表が4回設定されている。

また、毎回の講義で学んだことを、小レポートとして提出してもらう。

本講義では、最終試験として、研究計画書（リサーチ・デザインをまとめたもの）を提出してもらう。

（その他（オフィスアワー等））

授業時間の他に、実習としてデータ収集・分析の活動が含まれることに留意されたい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。